資料４

令和元年度　板橋区環境教育カリキュラム部会 活動報告

１ 令和元年度の活動経過

日 程	活 動 内 容		
７月	板橋区環境教育カリキュラム部会委員の推薦依頼及び決定		
７月２４日	第1回	・今年度の活動方針の確認 ・テキスト「未来へ」を活用した授業実践の内容及び日程の検討	
８月２８日	第2回	・環境教育に関わる指導事例や情報交換 ・第１回実践授業指導案検討	
９月１３日	第3回	○環境教育実践授業 授業者　蓮根第二小学校 金澤 恭一 主任教諭 第３学年　総合的な学習の時間 「ビオトープはかせになろう」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・児童生徒の変容や成果検証についての検討
１０月２４日	第4回	○環境教育実践授業 授業者　緑小学校 小松 拓野 教諭 第６学年　理科 「生き物のくらしと環境」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・学校や地域の特色を踏まえた指導計画の検討
１０月２５日	第5回	○環境教育実践授業 授業者　志村小学校 田中 美智子 主幹教諭 第３学年　総合的な学習の時間 「フードロスのためにできること」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・環境について児童生徒が自分の事として捉える指導の工夫の検討
１１月１２日	第6回	○環境教育実践授業 授業者　西台中学校 小井田 美音 教諭 第２学年　社会科 「身近な地域の調査」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・学校生活において、生徒にＳＤＧｓを意識させる取組について
１１月１８日	第7回	○環境教育実践活動 授業者　高島幼稚園 新井 裕莉香 主任教諭 ５歳児 「“まだ、つかえるよ。また、つかおうね” 身近なものを大切にしよう」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・課題のある幼児等に対する個別の対応について
１月１６日	第8回	○環境教育実践授業 授業者　高島第一中学校 大久保 秀樹 主幹教諭 第３学年　理科 「生物同士のつながり」	・実践授業について協議 ・今年度の授業実践の成果と課題

２ 授業実践報告

（１）　令和元年９月１３日（金）　蓮根第二小学校　＜テキスト「未来へ１」 3＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第３学年　総合的な学習の時間「ビオトープはかせになろう」〔共生・保全〕
本時の目標	ビオトープと人との関わりについて考え、イメージマップを作成し、テーマを設定する。
環境教育の視点を位置付けた活動	イメージマップから、自分たちが興味をもったことや疑問に感じたことを挙げ、発表する。 【感受性】身近な地域と自然環境や社会環境に興味・関心をもち、意欲的に関わることができる。
成果と課題	○１９年間学校で維持してきたビオトープという身近なテーマで、児童の関心・意欲が高かった。 ●人との関わりに結び付けられないグループがあったので、イメージマップの書き方・連想の仕方を全体で共有してからグループ活動をする。

（２）　令和元年１０月２４日（木）　緑小学校　＜テキスト「未来へ２」　11＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第６学年　理科「生き物のくらしと環境」〔循環・保全〕
本時の目標	地球で起きている環境問題が生き物に与えている影響を、「食物連鎖」「水」「空気」の視点で考えることができる。
環境教育の視点を 位置付けた活動	どのような環境問題なのか、環境問題が生き物にどのような影響を与えるのかをタブレットで調べ、ワークシートにまとめる。 【情報収集力・読解力】環境問題の生物への影響を総合的に調べている。
成果と課題	○児童が意欲的にタブレットで調べ学習をしていた。 ●テーマが広いので、調べて分かったことをまとめた後、児童の意見に具体性が見られなかった。テーマを具体的に設定し、環境問題について、児童に自分のこととして捉えさせる必要がある。

（３）　令和元年１０月２５日（金）　志村小学校　＜テキスト「未来へ１」　9から13＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第３学年　総合的な学習の時間「フードロスのためにできること」〔循環・有限性〕
本時の目標	食べ物を捨て続けたら起こるであろう問題について、資料を読み取ったり話し合ったりする活動を通して調べ、食べ物を無駄にする問題点について考えをもつことができる。
環境教育の視点を 位置付けた活動	食べ物を捨ててしまう理由について考え、学習問題を作る。 【感受性】学校生活や普段の生活から、なぜ食べ物を捨ててしまうのかについて自分の考えをもつことができる。
成果と課題	○給食一人分のごはんに必要なエネルギーはどのくらいかをイラストで掲示するなど、視覚的な掲示物を有効活用して、イメージしにくい大きな数量を分かりやすく伝えていた。 ●食糧の問題からごみ問題へと児童の意識が広がってしまった。食糧に焦点化した方が具体的な児童の振り返りにつながった。

（４）　令和元年１１月１２日（火）　西台中学校　＜テキスト「未来へ３」　7から8＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第２学年　社会「身近な地域の調査」〔共生〕
本時の目標	これまで学習した日本の諸地域の課題や対策を振り返り、身近な地域の環境に対する問題意識をもつことで二酸化炭素の排出量削減のための実践的な行動の必要性を考える。
環境教育の視点を 位置付けた活動	地球温暖化問題への対策として自分が今から行動できることをワークシートにまとめる。 【気付き】一人一人の行動によって、経済成長と環境保全の共生を図っていくことの可能性を広げていくことに気が付き、自分が行動していくことを考えている。
成果と課題	○提示された学習内容とＳＤＧｓとの関わりを生徒自らが考えられるほど、ＳＤＧｓの意識が校内に浸透していた。 ●授業のまとめに視聴した映像資料が、生徒の思考を限定させることになってしまう可能性もある。本時の中で提示する資料を精選していく必要がある。

（５）　令和元年１１月１８日（月）　高島幼稚園

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	５歳児　「“まだ、つかえるよ。また、つかおうね。”身近なものを大切にしよう」〔循環・有限性〕
本時の目標	幼稚園生活の中で、身近な物を大切にしようとする気持ちをもつ。
環境教育の視点を 位置付けた活動	「かたつむりのおやくそく」についての教師の話を聞き、かたづけじょうず、たいせつにつかう、つかいきる、むだにしない、りさいくる、の言葉について、自分の言葉で説明する。 【実践力】「かたつむりのおやくそく」を思い出し、日常生活の中で、自分ができることをやってみようとする気持ちをもつことができる。
成果と課題	○幼児の集中を切らさないよう、視覚的教材に工夫を凝らしていた。 ●本時の内容を単元計画の「ＴＨＩＮＫ」に位置付け、「ＡＣＴ」は実際に行動する内容を位置付けた方が、より実践力を育むことにつながる。

（６）　令和２年１月１６日（木）　高島第一中学校　＜テキスト「未来へ３」　2・5・6＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第３学年　理科「生態系の中の生物の役割」〔生態系・保全〕
本時の目標	シミュレーション実験の結果から、生物は、一定の範囲内で増減をくり返し、その範囲は、生育できる面積によることを推定する。このことを、人類がこれまで増え続けてきたことと関連付けて、人類のこれまでとこれからを考える。
環境教育の視点を位置付けた活動	各班から、各動物の最大数、２０年間での増減の周期の回数を発表する。 【思考・判断・表現】各班の結果と自分の班の結果を比べ、周期と面積との関わりについて考えている。
成果と課題	○生態系という大きなテーマを、ゲーム性を取り入れて体験的に学ぶことで、実感を伴った学びにつながっていた。 ●ゲームのルールを忠実に守らないと、安定した実験結果が出ないため、意欲的に実験に参加させる手だてが必要である。

３　授業者の振り返り

・様々な校種の取組を見ることができ、発達段階に応じた指導について理解が深まった。
・校内研修等で、今取り組んでいる授業の中に環境に関わることがないか、見直していくことで他教科にも還元していきたい。
・自分自身がＳＤＧｓに関心をもつことができた。
・環境について、今自分自身が実践している中で何ができるだろうか、考えるようになった。
・自分自身が環境に対する意識をもつと、子どもにもその思いが伝わり、行動変容が見られた。
・幼稚園など小さいうちから環境について考え、教育を積み上げていくことは本当に大切なことだと思った。
・職員室で授業を考えていると、環境について話題になり、よい機会となった。
・実践した内容を新聞等で掲示すると、他学年の子どもがそれを見て話をしている様子を見かけるようになった。
・別の言葉で取り組んできたことが、ＳＤＧｓにつながっていくことに気が付くことができた。
さらに、その気付きを子どもに伝えると、子どもからも新たな視点が出て、大変勉強になった。
・教科を越えて行事や係・委員会・部活動など多くの場面で環境問題へつなげられるようにしたい。
・「未来へ」のデータが区内共有フォルダにあるということの認知度を上げるとよい。
・「未来へ」の内容を、より板橋区らしいものに更新していく必要がある。

４　今後の方向性

・授業実践において環境教育プログラム部会員が協議会に参加し、貴重な意見や様々な示唆をいただいた。今後も環境教育プログラム部会と環境教育カリキュラム部会の両部会で連携し、さらに学校における環境教育を充実させていく。
・現在、板橋区立小学校２校がユネスコスクール加盟校、小学校３校と中学校２校が加盟申請中である。それらの学校と連携し、ＥＳＤ及びＳＤＧｓの視点を踏まえた環境教育の実践について全校に周知・啓発していく。
・今年度、課題となった「自分ごととして捉えさせる」指導の工夫を、一単位時間ではなく、単元全体をデザインする視点で改善を図っていく。
・子どもたちの環境に対する意識の変容を、質的側面から観察し、明らかにするための方法を検討していく。
・「未来へ」の内容改善や在り方について検討していく。